

人工股関節手術…①

【手術の目的と適応】

ずっと健康、
いつも安心。

朝日生命では、「お客様の健康増進に幅広く貢献していく企業」を目指して「ずっと健康、いつも安心」を統一キャッチフレーズとする「朝日生命健康プロジェクト」を推進しております。

小さく切る最新手術で痛みから開放

年をとってくると体のいたるところに加齢の影響が出てきます。体全体を支える役目をしている股関節も、加齢によって軟骨がすり減ることは避けられません。その結果、痛みが出て歩けなくなることも。そんな場合の治療の選択肢となるのが、「人工股関節手術」です。今回からは、進歩が目覚ましい「人工股関節手術」について、湘南鎌倉人工関節センターの平川和男センター長と塚本理一郎医師に解説してもらいます。



湘南鎌倉人工関節センター長
平川 和男

ひらかわ・かずお。1987年山形大学医学部卒。93～96年米国クリーブランドクリニック留学。横浜市立大学医学部整形外科、同大学付属市民総合医療センター整形外科、平塚共済病院整形外科などを経て、2004年より現職。

湘南鎌倉人工関節センター整形外科医師
塚本理一郎

つかもと・りいちろう。1998年東京医科大学医学部卒。同年土木建築組合厚生中央病院整形外科入局。白金整形外科病院、米国Loma Linda University留学などを経て、2007年より現職。



人 工股関節手術の最大のメリットは 痛みから開放されること

股関節は「ボールと受け皿の関節」として知られています。大腿骨（太ももの骨）の丸い骨頭（ボール）が骨盤の臼蓋（受け皿）に組み合わさってできているからです。この股関節が何らかの原因ですり減ったり変形したりして、関節本来の機能が損なわれてしまうことがあります。その傷ついた股関節を人工の股関節部品に置き換える手術を「人工股関節置換術」といいます。

股関節が傷んだり変形したりすると痛みが出て、歩くときも足をひきずったりします。極端な場合は動くことさえできなくなり、患者さんのQOL（生活の質）は大きく低下します。そういう意味では、人工股関節手術の最大のメリットは痛みから開放されることです。股関節の痛みで歩けなくなり、家に閉じこもっていた患者さんがこの手術を受けて歩けるようになり、「生活ががらりと変わった」と喜んでいる姿を私たちは数多く見ています。

現在、日本の人工股関節手術数は年間約3～4万件と推定されています。対して、人工関節の先進国米国では年間約30万件です。米国の人口は日本の約2倍ということを考えても、日本はまだ少ないのが現状です。しかし、人工股関節手術は近年格段と進歩していて、手術を受ける人も年々増えています。

手 術法も周辺機器の工夫により進歩 MIS（最小侵襲手術）も可能に

現在、人工股関節置換術の最新手術とされているのが、小さな切開で手術をするMIS（最小侵襲手術）です。私たちも2000年から導入しています。

従来の手術は10～20cm程度の皮膚切開が必要でしたが、MISでは内視鏡や特殊な器具を使って6～8cmの切開で手術することができます。傷口が小さくなることで筋肉や軟部組織（皮膚など）の損傷も最小限に抑えられ、筋力の低下も防ぐことができます。術後の痛みも少ないので、歩行訓練などの術後リハビリが早期に開始でき、早期退院、早期社会復帰も可能になりました。入院期間が短いので、医療費の節減にもつながります。人工股関節置換

術の入院期間の全国平均は約40日ですが、私たちのところでは現在術後平均7日間です。

もちろん、MISは熟練した技術が必要ですから、すべての整形外科でできるわけではありません。厚生労働省の調査によると、人工股関節置換術に占めるMISの割合は約25%とまだ少ないのです。MISは術野が狭いので、一般的な手術法よりも時間がかかると思われがちですが、きちんとした訓練を受けたドクターが施行すれば問題ありません。患者さんの体格や股関節の変形の程度によってはMISが難しいこともありますから、まずは専門医に診断してもらうことが大切です。

原 因疾患はさまざまだが、 変形性股関節症が多い

人工股関節置換術の対象になるのは、おもに以下のような疾患です。

【変形性股関節症】生まれつき股関節がずれていた（先天性股関節脱臼）、骨盤の發育不全などがあつたりすると、体の重みや使いすぎなどで軟骨がすり減りやすく、骨頭と臼蓋がこすれあって痛みや運動障害を招く病気です。

【関節リウマチ】関節リウマチのような関節炎では、関節の中にある膜が炎症を起こします。炎症により放出された化学物質が関節の軟骨や骨を破壊し、痛みや腫れを引き起こします。

【大腿骨骨頭壊死】血行障害が原因で骨組織が壊死する疾患です。

【外傷】事故などの衝撃で股関節脱臼や骨折などを起こすと、後遺症として関節疾患になることがあります。

こうした疾患の中で、もっとも多く人工股関節置換術の対象になるのが変形性股関節症です。日本人はもともと臼蓋に変形のある人が多く、それが加齢とともに加速してこの病気になりやすいのです。

日本人はどちらかというと我慢強く、かなり激しい痛みがあっても我慢してしまう人が多いのですが、痛み止めや減量などの保存的治療でも痛みが取り除けないときは、人工股関節手術という選択肢もあることをまずは知っておいてほしいと思います。

（次回は「MISの方法とおもな合併症」を取り上げる予定です）